

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	土地	5,250,000	当座預金	250,000
			未払金	5,000,000
2	損益	818,000	売上原価	818,000
3	支払手数料	12,000	現金過不足	20,000
	旅費交通費	6,000		
	雑損	2,000		
4	建物	8,000,000	未払金	10,000,000
	修繕費	2,000,000		
5	租税公課	10,000	現金	14,100
	通信費	4,100		

・解説

1. 固定資産の購入に関する問題です。

建物や車両、備品、土地などの固定資産を購入したさいに、不可避免的に発生した費用（付随費用）は**購入原価に含めて処理**します。本問の「**仲介手数料 ￥250,000**」も、購入原価に含めて処理しましょう。

$$\text{購入代価} = 500 \text{ m}^2 \times @10,000 \text{ 円} = 5,000,000 \text{ 円}$$

$$\text{付随費用（仲介手数料）} = 250,000 \text{ 円}$$

$$\text{購入原価} = \text{購入代価 } 5,000,000 \text{ 円} + \text{付随費用 } 250,000 \text{ 円} = 5,250,000 \text{ 円}$$

なお、商品売買取引以外で発生した未払債務 5,000,000 円は、**未払金**で処理します。うっかり買掛金で処理しないように気をつけてください。

- ・商品売買取引に伴い発生した未収債権・未払債務 → 売掛金・買掛金
- ・商品売買取引以外で発生した未収債権・**未払債務** → 未収入金・**未払金**

固定資産の購入に関する問題は、第100回の間5や第101回の間4、第106回の間1、第109回の間3、第113回の間3、第116回の間2、第118回の間2、第123回の間3、第128回の間5、第129回の間2、第132回の間3、第139回の間2、第143回の間4、第145回の間4、第148回の間4でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. 損益の振り替え（決算振替仕訳）に関する問題です。

問題の指示に従って、売上原価 818,000 円を損益に振り替えるだけです。

損益の振り替えに関する問題は、第105回の間5や第107回の間5、第125回の間4、第133回の間5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 現金過不足に関する問題です。

問題文の「現金の帳簿残高が実際有高より ¥ 20,000 多かった」から、帳簿残高を実際有高に合わせるために以下の仕訳を切っていたことが分かります。

☆参考・現金のズレを調整したときの仕訳

(借) 現金過不足 20,000 / (貸) 現金 20,000

現金過不足の仕訳を考えるさいは常に**実際有高に合わせる**のがポイントです。本問の場合、実際有高のほうが20,000円少ないので、同額だけ現金の帳簿残高を減らしてズレを調整します。

上記の仕訳から、借方に現金過不足20,000が計上されていることが分かるので、まず、**現金過不足の残高をゼロにする**ために同額を貸方に計上します。

★ステップ1・現金過不足の残高をゼロにする

(貸) 現金過不足 20,000

次に、問題文に「**支払手数料 ¥ 12,000 と旅費交通費 ¥ 6,000 の記入が漏れていることが判明**」とあるので、記入漏れが判明した支払手数料と旅費交通費をそのまま計上します。

★ステップ2・原因が判明したものを正しく処理する

(借) 支払手数料 12,000 / (貸) 現金過不足 20,000

(借) 旅費交通費 6,000

最後に、貸借差額を雑損または雑益で処理します。

★ステップ3・貸借差額を雑損または雑益で処理する

(借) 支払手数料 12,000 / (貸) 現金過不足 20,000

(借) 旅費交通費 6,000

(借) 雑 損 2,000

現金過不足の決算整理仕訳は、上記の3ステップにあてはめて考えると分かりやすいです。

現金過不足に関する問題は、第110回の間4や第111回の間4、第115回の間1、第117回の間1、第123回の間2、第133回の間4、第135回の間1、第142回の間5、第147回の間1でも出題されているので、あわせてご確認ください。

4. 固定資産の修繕に関する問題です。

簿記3級の第1問で資本的支出・収益的支出が問われたのは今回が初めてですが、第145回の第4問（語句記入）や第149回の第4問（語群選択）などで何度か出題されている論点です。

- ・資本的支出：耐用年数を延長させたり、その価値を高めるような支出 → **固定資産の増加**として処理
- ・収益的支出：定期修繕など固定資産の諸機能を維持するための支出 → **修繕費**で費用処理

本問の場合、資本的支出 8,000,000 円は**建物の増加**として処理し、収益的支出 2,000,000 円は**修繕費**で費用処理します。

固定資産の修繕に関する問題は、第 139 回の問 3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. 租税公課・通信費に関する問題です。

本問は、「収入印紙→**租税公課**」「郵便切手→**通信費**」という処理方法を知っているかどうかを問うだけの簡単な問題です。

- ・租税公課：収入印紙代、固定資産税、自動車税など
- ・通信費：電話代、切手・ハガキ、宅配便など

なお、期末に残りがある場合は、決算整理仕訳で租税公課・通信費を**貯蔵品**に振り替えます。参考までに仕訳をご確認ください。

☆参考・収入印紙が 5,000 円、郵便切手が 2,050 円残っていた場合の決算整理仕訳

(借) 貯蔵品 7,050 / (貸) 租税公課 5,000
(貸) 通信費 2,050

租税公課に関する問題は、第 106 回の問 4や第 107 回の問 2、第 111 回の問 3、第 122 回の問 1、第 125 回の問 2、第 127 回の問 5、第 129 回の問 5、第 133 回の問 3、第 135 回の問 4、第 137 回の問 2、第 139 回の問 4、第 141 回の問 5、第 146 回の問 3、第 147 回の問 2でも出題されているので、あわせてご確認ください。